■西都原発　考古学ノート

－西都原古墳群を歩いて－

今から 10 年程前のことである。歩き始めたばかりの息子とある公園で花見をしていた時、息子が犬の糞を踏んでしまった。足が付いて初めて履いた靴であったこともあってか、とてもブルーな気持ちになったことを今でも覚えている。

私が担当する業務の一つに地中レーダー探査がある。地中レーダー探査は、地中に放射する電磁波の反射波の走時を測定して、地中の様子を調査する方法で、発掘調査をしない非破壊の方法で、地中に埋蔵されている構造物について調査を行うものである。この調査では、50×50 ㎝のアンテナをソリに乗せて、調査対象地の地表面を一定の幅で引いて回る。

私は探査に携わって３年目であるが、これまでに西都原古墳群の第 1 支群や寺原第１・第２支群等の調査を行った。真夏の調査や１日に 10,000m以上歩くこと等大変に思ったこともあるが、ひたすら歩くことによって得られる特典がある。それは、古墳群の立地や地形、個々の古墳の形状を知ることができることである。調査は、現地形の上面でアンテナを走らせるので、古墳群の調査ではもちろん、残存する高塚古墳を上ったり、下ったりを何度も行う。高さ２m程の小円墳でも、墳裾が掘削されて切り立っているものは上り下りが大変である。ましてや前方後円墳の後円部は断崖絶壁のようにさえ感じることもあった。

歩くことによる特典は他にもある。春から初夏に墳丘の上にびっしりと生える蕨やアザミの花、秋に収穫する栗やドングリ等の木の実や柿、恐ろしいけれど飛び交うスズメバチに出会うこと等、日本の四季を満喫できることである。

そんな中、10 年前のブルーな気持ちを甦らせる場面に遭遇することがあった。それも頻繁にである。ある時は、探査を終えて古墳群を後にする私達の目の前で、犬の糞を移植ゴテで墳丘に投げ飛ばしている人も見た。探査の時に気付いたものは穴を掘って埋めたりしているが、如何なるものか･･･。日本の街や道路はきれいであると言われるが、油断はできない。

西都原古墳群は、春には桜や菜の花、夏は高取山のミツバツツジやひまわり、秋には秋桜等、花の季節にはたくさんの観光客や行楽を楽しむ人々でにぎわう。そして遠足や社会学習等でも多くの児童・生徒が訪れる。もちろんこの時期以外にも毎日のように運動や散歩で公園内を利用する人たちがたくさんいる。

こういう標示がなくなるといいですね。

世界文化遺産登録を目指す西都原古墳群として、誰もが気持ちよく過ごすことができる環境になって欲しいと願う。　　（髙橋浩子）